

永眠者記念礼拝 2021年9月19日(日)

題 『神さまの愛に包まれて』

テキスト：ヘブライ人への手紙 12：1～3

本日は昨年続くコロナ禍の中、このように皆様とともに召天者記念礼拝を守れますことを感謝致します。この礼拝を覚えながらも集えない方々のことを思います。天に召された方々とここに集われた方々の上に心つながる方々の上に、愛する人を召された方々の上に、主の慰めと祝福とを心からお祈り致します。

瞬きの詩人と言われる水野源三さんの詩に「虫」という詩があります。

～ 虫がないている いま ないておかなければ もうだめだというふうに  
ないている 涙をさそわれる～ (繰り返し)

秋になると思い出す詩です。 虫のなき声に人生の悲哀と喜び、生きることへの求めを思わされます。

ここに集った私たち一人一人天と地の創造者なる命の源なる神さまの愛の中を生かされていることを覚え、与えられた人生を大切にして歩みたいものです。今日は永眠者記念礼拝を共に捧げることができることを感謝いたします。ご一緒に聖書の言葉に心を傾けましょう。

1: こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、」とあります。礼拝堂の壁に掲げられた写真から天上の友を思い出します。まさに聖書のことば「このようにおびただしい証人の群れに囲まれている」ことを思います。聖書の著者はこの前の章で旧約聖書にでてくる信仰者たちの歩みを記しています。アブラハム、イサク、ヤコブ旧約時代の族長を初め様々な預言者たちが、この地上で信仰者としての歩みをまっとうしました。その人生は決して平坦ではなく、試練と苦難の連続でもありました。また、本日お配りした洲本教会の「天上の友」の名簿にあります洲本教会にかかわりながら人生を歩み天に召された多くの方々がおられます。そのような多くの信仰の証人達に私たちは囲まれているわけです。この方々は「お一人お一人すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜かれたのです。」 「絡みつく罪」とは、私たちの心に、すぐにまとわりついてくる悪い思いでもあると思います。疑いや不信、不安や怒りなどなど。しかし、試練や苦難の時、信仰者を支え続けたのは、神さまの憐みであり、主

イエスの十字架の愛であり、神さまの愛に包まれた主にある兄弟姉妹の暖かい  
交わりであったと思うのです。

ですから、わたしたちも信仰の先達、すなわち先輩方にならって、

「2:信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。」歩んで行きたい  
ものです。

<イエスを見つめながら>とは、ぼんやり眺めるのではありません。しっか  
りと心を込めて見るのです。

主イエスはただじっとがまんするのではなく、希望を持ってすべてのことを耐  
え忍ばれたのです。信仰者もイエスにある希望を持って地上のあゆみを送るの  
です。そして天上の命に与れることの約束があるのです。

ですから、聖書は今を生きる私たちにも力強く語りかけてくれています。

「3:あなたがたが、気力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に  
対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。」

私たちは自分の努力や力だけでは、信仰の旅路をまっとうできるものではな  
りません。

十字架を偲ばれたイエスの姿を思い起こすことによって力が与えられます。ま  
た天に召された兄弟姉妹の姿やお声や言葉を思い起こすことによって深い祈り  
と交わりと慰めと新たな思いを与えられるのではないのでしょうか。

そのようにして教会に呼び集められた者たちとしての神を仰ぎながらの時代  
を超えて歩みを続けて行けるのだと思います。

歴史における教会の継承について思うことがあります。

以前にもお話しさせて頂いたことがあるのですが、スペインのバルセロナに聖  
サグダラファミリア教会という町を代表する世界遺産にもなっている建築物の  
教会があります。建築家ガウディーが1852年から建設を開始し、現在まで  
約160年の年月をかけてもまだ建築途中であります。

日本人の外尾悦郎さんも主任彫刻家に任命され長くその建築に関わり、今なお  
大切な働きを続けておられるようです。

興味深いのは、その建物の大きさだけではなく、むしろ皆が、いつ完成する  
とも分からない建築に関わって、その働きを続けているという事実です。数年  
前までは、まだ80年はかかるだろう、と言われていました。建築にかかわっ  
ている人たちは、いつ完成するのか分からないけれどもかかわり続けるという  
思いがすばらしく畏敬の念を抱かずにはおられませんでした。サグダラファミ  
リア教会の建設はコロナウィルスのパンデミックが起こったので、この先どう

なるかは分かりませんが、IT技術の向上や建築のための寄付が世界から集められ、工期が大幅に縮まり2026年には完成する可能性があるとも言われています。

建築家ガウディーを始め、建築に関わって天に召された方々の思いが詰まった教会建築です。

洲本教会も今年10月には創立118周年の時を迎えます。私たちは天に召された信仰者の方々を覚えながら、主の働きに招き入れられていること、神さまの愛に共に包まれていることを感謝しつつこれからも歩みたいと願います。

- 1: こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、
- 2: 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。
- 3: あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。